



一般の方へ

## 放射線の基礎講座 病院でエックス線検査を受けられる方へ(第16回)

岡山大学大学院保健学研究科 准教授  
診療放射線技師・医学博士 澁谷 光一

おわりに

現在では、レントゲンの機材の進歩によって、被ばく量は非常に微量なものになっています。しかし、私達、診療放射線技師は、それを更に小さくするために努力しています。そのこともどうかご理解いただき、必要な検査なら、どうか安心してその検査を受けていただきたいと思います。

医療に放射線を用いるときの思想がありますので、最後に紹介したいと思います。第一に、「行為の正当化」という思想です。常に益が害を上回らなければ用いてはいけないということです。先に述べたように、「とりあえずCT」などと、安易な判断は避けなければならないということです。第二は、「防護の最適化」という思想です。被ばくは常に最小限に抑えなければならないということです。現在のレントゲン装置は、被ばくを微量なものにしましたが、一方では、レントゲン量を多くするほど写真が綺麗になるという矛盾もはらんでいますので注意が必要です。第三に、「医療被ばくの防護は正当化と最適化で行う」という考え方です。実は、奇妙なことにも思えるかもしれませんが、患者さんの医療被ばくの限度は定められていません。線量限度を設けることは、患者さん自身の医療上の利益を損なう恐れがあるためです。医療に放射線を用いるかどうかは、益が上回り、被ばく量が他のリスクに比べて許容されるかどうかで決めるということです。医師とよく相談して、納得して検査を受けるようにお願いします。

放射線は、体の中を画像として見ることができます。まるで魔法の光線です。とりわけCT程、体内を鮮明に映し出す装置は他にありません。しかし、一方では何らかの害を与える可能性もあります。益が害を上回るという考え方が、とても重要だと思います。どの程度までなら許容されるか、というラインを知って「正しく恐れてほしい」と思います。CTを撮ったために妊娠中絶をした、などという愚かなことが無くなることを願います。

長々とお付き合いしていただき、心からお礼を申し上げます。質問やコメントをいただくと幸甚です。